

# JANPU FDミニマムシリーズ

## E. 大学を取り巻く環境変化と看護学教育の課題-2

社会ニーズをとらえた行政施策により、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。人々の期待に応える看護学教育を展開していくため、これらの変化を知り、教育の目指すところと具体的な授業の方法を考えてみましょう。



一般社団法人 日本看護系大学協議会  
2023年度高等教育行対策委員会 作成

第6期科学技術・イノベーション基本計画では、我が国が目指す社会として **Society 5.0の基本的な考え方**が示されました。(閣議決定 2021年3月26日)

※<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6gaiyo.pdf>

## 我が国が目指す社会 (Society 5.0)

### □ 国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会

- **SDGs**の達成を見据えた**持続可能な地球環境**の実現
- 現世代のニーズを満たし、将来の世代が豊かに生きていける**社会**の実現
- 災害や感染症等の脅威に対する**持続可能で強靱な社会**の構築・総合的な安全保障の実現

### □ 一人ひとりの多様な幸せ (well-being) が実現できる社会

- **誰もが能力を伸ばせる教育**と、それを活かした**多様な働き方**を可能とする労働・雇用環境の実現
- **人生100年時代**に生涯にわたり生き生きと社会参加し続けられる**環境**の実現
- 人々が夢を持ち続け、コミュニティにおける自らの存在を常に肯定し活躍できる**社会**の実現

同年12月から開催された教育未来創造会議では、**我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方**について提言(第1次)がなされました。(2022年5月10日)

※<https://www.cas.go.jp/ip/seisaku/kyouikumirai/teigen.html>



## 基本理念

- 日本の社会と個人の未来は教育にある。教育のあり方を創造することは、教育による未来の個人の幸せ、社会の未来の豊かさの創造につながる。
- 人への投資を通じた「成長と分配の好循環」を教育・人材育成においても実現し「新しい資本主義」の実現に資する。



## 目指したい人材育成

- 未来を支える人材像
  - 好きなことを追求して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材
- 高等教育で培う資質・能力
  - リテラシー／論理的思考力／課題発見・解決能力／未来社会を構想・設計する力

## Society 5.0に向け、看護学教育に求められているもの

### ■ 探求力と学び続ける姿勢を強化する教育・人材育成を行うこと

□ 学校教育において**STEAM教育**を受けた学生が入学してきます。

➤ STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲でAを定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等**文理横断的学習**

□ 科目を超えて様々な情報を活用・統合し、課題の発見・解決や社会的な価値の創造を導く能力の育成が必要です。

□ **多様性**：画一化するのではなく多様な能力を伸ばす考え方が求められます。

□ **リカレント教育**：何度でも学び直すことができる環境整備も必要です。

## Society5.0に向け、看護学教育に求められているもの

- デジタルトランスフォーメーション(Digital Transformation : DX)の推進
  - デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること、既存の価値や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの
  - 情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) の活用
  - モノのインターネット(Internet of Things : IoT) への対応：様々な「モノ」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みであり、ビッグデータの生成、収集、蓄積、人工知能(Artificial Intelligence : AI)による分析
  - 育成が求められる能力
    - 課題解決のためにAIやデータを使いこなすことができる力
    - フィジカル空間での知識やデータを生かし、サイバー空間へ展開できる力

# Society 5.0に向けた、看護学教育：講義・演習・実習



## 講義

- 探求する力と自ら学び続ける力を育成する学習方法を検討する。
- 例えば…
  - 対面授業、オンライン授業の効果的な選択
  - eラーニング学習の導入、オンデマンド教材の提供
  - 多様性を伸ばすカリキュラムの提供
  - リベラルアーツ科目の提供
  - データを使いこなすための科目の提供

# Society 5.0に向けた、看護学教育：講義・演習・実習

## 演習

- XR教材を開発、シミュレーションモデルやエコー機器を活用し、問題解決能力と、プロフェッショナルとしての態度を育成する。
- 例えば…
  - **DX推進**：クロスリアリティ（XR）：VR, AR, MRの総称
    - 仮想現実（VR）：Virtual Reality
    - 拡張現実（AR）：Augmented Reality
    - 複合現実（MR）：Mixed Reality
  - **DX教材を使いこなし、フィジカル空間へ展開できる力**

# Society 5.0に向けた、看護学教育：講義・演習・実習

## 実習

- 看護実践能力を、保健医療チームの一員として一定の役割と責任を負いながら看護ケアを実践することを通して育成する。
- 例えば…
  - 参加型実習・DXを推進することで、
    - 様々な情報を活用・統合し、課題を発見・解決する能力を育成
    - 知識・技術・態度が総合された看護実践力を育成



# Society 5.0に向けた、看護学教育：参加型実習とその意義

## 参加型実習とは

- 看護学生が臨地実習指導者の指導の下、医療チームの一員として、臨地における一定の役割と責任を担いながら看護ケアを実施する。
- 多様な場において、多様な人を対象として援助することを通して、学生が対象者との関係形成を中核とし、多職種連携において必要とされる連携・協働能力を養い、看護専門職としての批判的・創造的思考力と問題解決能力の醸成、高い倫理観と自己の在り方を省察する能力を身に付けることを目指す。

大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会（2020）看護学実習ガイドライン。  
文部科学省 [https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt\\_igaku-000006272\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200330-mxt_igaku-000006272_1.pdf)

- 共用試験等の導入によって学生の知識と看護技術の到達度を保証することを前提とした参加型実習の推進により、COVID-19拡大等の事態においても、臨地実習を継続する（指導のもとチームの一員と一定の役割を果たす）ことが可能となる。

# 参考) 医学教育における参加型臨地実習

## ■ スチューデント・ドクター制度の概要

- 共用試験CBT (Computer-Based Testing : CBT)
- 共用試験臨床実習前OSCE (Objective Structured Clinical Examination : OSCE)
- 2005年から公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) により実施されている。
- 全国医学部長病院長会議 (AJMC) がStudent Doctor認定証を発行する。
- 本来医行為を認められていない医学生に、実習の範囲内で医行為を行うことができる認証 (違法性の阻却事由) を与える。このことに関して、医師法が改正され、第17条の2が追加された (2023年4月1日)。

※医道審議会医師分科会報告書。令和2年5月, <https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000629953.pdf>

以下の問いかけについて、  
これまでこのように取り組んできた、これからこうしたらいいのでは等、  
自由に仲間と討議してみてください。

- 👁️ 未来を牽引する大学の在り方に照らして、看護学教育に求められているものは何でしょうか？
- 👁️ 具体的には、どのような授業(講義・演習・実習)展開が可能でしょうか？
- 👁️ チームの一員として学ぶ参加型実習について、あなたの大学ではどのように考えますか？実現可能性や課題はどうですか？